

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	24-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Association of binge alcohol use with functional outcomes among individuals with COVID-19 infection COVID-19 感染者における過度の飲酒と機能的転帰との関連		
執筆者		
Tong ST, Gottlieb M, Ebna Mannan I, Zheng Z, Sinha M, Santangelo M et al.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2024 Nov 18;60(1):agae086. doi: 10.1093/alcalc/agae086		
キーワード	PMID	
COVID-19 感染、アルコール摂取、過度の飲酒	39745829	
要 旨		
<p>目的： COVID-19 パンデミック中、アルコール消費に関して過剰摂取による後遺症が増加した。COVID-19 陽性者における過度の飲酒と長期的な機能アウトカムとの関連を評価した。</p> <p>方法： 前向き縦断的多施設コホート研究デザインを用いて、感染後 3 ヶ月および 6 ヶ月における患者報告アウトカム測定情報システム (PROMIS) -29 スコアを用いて、過度の飲酒と精神的・身体的機能アウトカムとの関連性を評価した。対象患者は、COVID-19 様症状を呈し、COVID-19 検査で陽性となり、3 ヶ月間の調査を完了した患者とした。過度の飲酒は、感染時に「タバコ、アルコール、処方薬、その他の物質使用スクリーナー」を用いて特定された。人口統計学的特性、健康の社会的決定要因、物質使用、併存疾患、および COVID-19 ワクチン接種状況を調整した一般化推定方程式モデルを用いて、過度の飲酒と精神的・身体的機能アウトカムとの関連性を評価した。</p> <p>結果： 3,529 人のうち、23.7%が過度飲酒のスクリーニング検査で陽性反応を示した。過度飲酒の自己申告者は、3 ヶ月時点で、身体機能 (推定値: 1.08、95%信頼区間 (CI) 0.44~1.71)、疼痛による影響 (推定値: -0.86、95%信頼区間 (CI) -1.57~-0.15)、および身体的健康 (推定値: 1.09、95%信頼区間 (CI) 0.43~1.75) の差と関連していた。6 ヶ月時点では、過度飲酒と結果の間に関連は認められなかった。</p> <p>結論： COVID-19 感染前の過度の飲酒は、3 ヶ月時点で統計的に有意ではあるものの臨床的には無関係な機能改善と関連していたが、6 ヶ月時点では持続しなかった。感染後およびパンデミック後のストレス要因が、過度の飲酒よりも機能アウトカムに大きな影響を与えた可能性がある。特に COVID-19 感染者における過度の飲酒頻度の高さと機能アウトカムとの関連性については、さらなる研究が必要である。</p>		